



令和5年度 学校評価報告



- ① 自己評価結果報告
- ② 教職員自己評価
- ③ 保護者アンケート調査



ときわみなみの こどもえん
www.tokiwa-minamino.net

教職員自己評価

- 4 よくできている
- 3 まあまあできている
- 2 あまりできていない
- 1 まったくできていない

総合評価
3

I 保育の計画性

内 容		評価
1	園の教育理念や教育方針を理解する	3
2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解し、それをもとに保育計画を立てる	3
3	週日案・月案は、園の方針、教育要領、教育課程、幼児の実施をもとに作成している	3
4	クラスの保育・教育指導は学年・クラスの担任が十分話し合い、協同体制で取り組みをする	4
5	園児が主体的に関わりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をする	3
6	季節の変化に応じた環境構成をする	3
7	園児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をする	3
8	自分の保育を評価し、反省して次の評価に生かす	3
9	異年齢の園児が自然に交流できるような環境構成をする	3
10	畑の活動を通して作物の生長、収穫の喜びを子どもたちに伝える	3
11	食育を通じてより良い食習慣や心身の健康の基礎を培うように努めている。	3

～主な成果～（よく出来ていること）

【幼児】

- ・週日案を立て子どもがしたい遊びや育ちのきっかけになるような活動を組み込んだ。
- ・学年会議・幼児会議で他のクラスの様子を知り共有したり、良い所を真似たりすることができた。全職員が共通した関わりが出来た。
- ・週日案で日々の保育を振り返り、反省し保育に臨むことが出来た。
- ・季節にあった制作や自然あそびを心がけて取り組むことが出来た。
- ・畑の活動に力をいれることが出来た。
- ・給食時、苦手な食べ物にチャレンジする気持ちを育て、子ども自身の達成感を味わってもらえた。
- ・公開保育を通じて職員間で園の教育方針や今後の目指す保育について確認出来た。
- ・クラスや学年の先生と子どもたちの様子やクラスのこと等について話し合い現状を伝え合うことで連携をとることが出来た。職員同士でクラスの状況を見ながらサポートしあえたと思う。
- ・通常保育時、長期休み中も野菜を収穫したりクッキングをしたり例年よりも多く行うことが出来た。
- ・学年の先生同士で沢山話し合うことができ、情報共有やお互いの意見を取り入れることが出来た。
- ・異年齢の交流がしやすいように、子どもたちと約束を決め、他のクラスに遊びに行くことを許可した。
- ・クッキングを通じて畑の野菜が身近になるように取り組むことが出来た。
- ・遊びを通して主体性や自立心を育てて行くことを意識して預かり保育での遊びの内容やどの玩具、製作物を出すかを考えて設定が出来た。

【乳児】

- ・園の教育方針・教育理念を理解し、より良い保育が出来るよう努めた。
- ・気温や湿度に応じて換気したり、子どもの発達や生活の様子に応じた環境構成をするよう配慮したりするなど職員同士で相談しながら対応出来た。
- ・環境構成に関しては、補助の先生方が積極的に動いてくれているので衛生面や安全面でも配慮することが出来ている。これからもチームワークを大切にしていきたい。
- ・今年は細めに畑へ行き収穫をしたりどんな野菜が育っているか興味を持ち、自分たちで収穫したことで苦手なものにも挑戦する姿が多く見られた。

（生活の中で自然と食育を含めて保育出来たことが良かった）

- ・クラス担任全体での悩みや疑問、成長に併せて子どもたちにどう援助していくかや環境等についてその都度話しあい協同体制をとる事が出来た。日々の戸外遊びにて自然物と触れ合う中で季節の変化を感じられるような関わりを心がけた。
- ・園児の発達、生活を見通して季節の変化に応じた環境構成ができた。
- ・育児担当制について改めて見直し1対1で関わることを大切に保育をした。その結果、子どもが安心して過ごせる環境が出来、保育教諭との愛着関係を築くことが出来た事で情緒の安定に繋がった。
- ・自然豊かな園庭に毎日出ることによって草花や野鳥など身近に触れることが出来とても良い環境の中で過ごせと思う。
- ・乳児園庭に花壇を造ったことにより植物の成長を日々感じながら遊ぶことが出来良かった。
- ・【預かり保育】発達に合わせた保育をしていくことを考え実行した。集団遊びも年少も理解出来、全学年で楽しめるもの考えた

【幼児】

- 学年での話し合いを増やす。
- 園外保育・地域との交流を計画したい。
- 教育要領をもとに保育計画を作成していく。
- 反省を記録に残しより自己分析が出来るようにする。
- 異年齢の活動がしやすいように取り組む。
- 週案の立て方を工夫する。
- 玩具の出し方を学年で統一する。
- 食育の話しを丁寧に伝えていきたい。
- 月齢差や安全面から畑活動に参加できなかった。グループを分けたり等工夫し、作物の生長や土の感触を沢山体験させたい。
- さらによりよい保育が出来るように協力しあっていきたい。
- 発達段階やこどもの特徴の違いなどで対応も変わるため日々勉強し理解を含め計画的に保育、援助ができるよう努めて行く。
- 家庭よりも長い時間を過ごす園生活において集団であっても一人ひとりの子どもにとって安心できる生活の場となるように、またそれをベースとし好奇心や意欲等の生きる力を育てていけるように考えていく。
- 季節に合わせた製作を今後計画していく。
- 成長家庭については意識的に遊びや環境構成に反映したが、季節の変化や畑に関しては、短期的にしか取り入れていなかったため、じっくりそこに触れたり関わったり出来るように年間の計画を取り入れていきたい。

【乳児】

- 0歳児は畑に行く機会がほとんどなかった為、もう少し子どもたちと畑に行く機会をつくる。
- 家庭よりも長い時間を過ごす園生活において集団であっても一人ひとりの子どもにとって安心できる生活の場になるように、またそれをベースとし好奇心や意欲などの生きる力を育てていけるように考えていきたい。
- 自分の保育をしっかり振り返り、次に活かせるようにしていく。
- 発達段階や子どもの特徴の違いなどで対応の仕方も変わるため、日々勉強し、理解を深め、計画的に保育、援助が出来るよう努めて行く。
- [預かり保育] 年長の卒園に伴い、年長児のあるべき姿を年少中に伝えられるように「年長さんは、こんなことが出来たよね」などみんなが来年度意識できるように発信する。

4 よくできている

3 まあまあできている

2 あまりできていない

1 まったくできていない

総合評価
4

Ⅱ 保育の在り方、子どもへの対応

内 容		
1	朝の登園時は特に視診を大切にしてい園児の体調が悪くないかを確認する	3
2	体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している	4
3	子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している	3
4	子ども一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受入れ認めるようにしている	4
5	子どもとの温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている	4
6	子どもをほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている	4
7	一人ひとりの排泄感覚を把握し、その子の排泄のリズムに合わせて。オムツを交換したり、トイレに促している（1～2歳児）	4
8	家庭と連絡をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ食への意欲を育てる（1～2歳児）	4
9	禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている	4
10	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとり、安心感と自己肯定感がもてるような言葉かけをしている。	4
11	園児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている	3
12	他のクラスや異年齢の幼児たちと自然に交流できる場を作っている	3

～主な成果（よくできたこと）～

【幼児】

- ・補助の先生と連携をとり体調に異変がないか視診、検温し適切な対応が出来た。
- ・安心して子ども園に通えるようにスキンシップをとり丁寧な関わりをすることが出来た。
- ・家庭環境を含め、体調面など気になることを職員に会議の場で共有した。
- ・子どもたちと沢山スキンシップをとり、愛情を注いだ。子どもたちと信頼関係が築けたことで教師の思いが子どもに伝わるようになった。
- ・登園時にスキンシップをとり、挨拶を心がけた。感染症が流行っている時期には特に子どもの体調を気にかけるようにした。
- ・子どもの個性を理解し一人ひとりにあった声掛けをした。子どもたちの声をよく聞き遊びに活かす事が出来た。
- ・一人ひとりの個性を捉えながら、認める声掛けや励ましの言葉を意識していたことで子どもたちも色々なことに挑戦したり、友だちを認めたりする姿につながることが出来た。
- ・年少さんは、不安な気持ちで登園してくる子が多かったので早い段階で信頼関係を作れるように子どもたちとの会話を楽しみ一緒に遊び、スキンシップを沢山とるようにした。

【乳児】

- ・排泄や身支度などの場面（少しづつ目分（出米るよつ）になることが増えたり「目分（出米るよつ）」という意識が強くなってくる時期ではあるので、一人ひとりに合わせた援助や課題を考えたり、言葉かけを工夫し、自信に繋がる関わりを職員間のチームワークを大切にすることで、ソフメの雰囲気も温かいものとなり子ども一人ひとりとのやりとりやスキンシップも安心感があり穏やかに行われていると感じる。
- ・子どもの様子を観察し、何に困っているか、何を伝えたいかなどを察知し、援助することが出来た。
- ・発達の違い等を考慮し、一人ひとりにあった声掛けや、やりとりをするように心がけた。
- ・体調のことやトイレトレーニングについてなど、保護者と話をし一人ひとりに進めたり配慮をしながら進めることができた。
- ・ほんの些細な体調の変化等がみられたら際は、すぐに職員間で情報を共有し家庭と連携をとることが出来た。
- ・スキンシップをとり子どもの声を受け止めながら信頼関係を築くようにした。
- ・受け入れ時には必ず目視で体調について確認し、変わった様子があればすぐに他の職員にも共有し必要であれば保護者にも伝えることが出来た。
- ・1対1での絵本の読み聞かせ、わらべうたを通してスキンシップを取りながら落ち着いて関わる事が出来た。
- ・クラスでも預かり保育でも1番大事にしたことは、子どもが安心出来る、信頼出来る存在でいる事と考え関わり

～課題～今後やるべきこと

【幼児】

- 異年齢での関りがスムーズにできるように他の学年の先生と連携をとれるようにしたい。
- 遊びの延長で他クラス、他学年と交流はあったが、クラス全体で交流したりは少なかったので進級に向けて集団遊びなどでの交流を増やしたい
- 異年齢の関わりがスムーズに行えるように他の学年の先生と連携をとる。
- 園児の成育歴を把握し、確認したうえで援助や保護者支援を行えるように努めたい。
- 子どもに対し褒める、励ますような言葉がけを意識しているが行動を促す際に禁止や急かしてしまうこともあるので促し方も工夫していきたい。
- 子育て支援室の遊びが充実できるように環境を整える。

【乳児】

- 熱性痙攣の対応など職員間で共有したことを活かして落ち着いた対応が出来るようにしていきたい。
- 家庭との情報交換などの連携もしっかり図っていきたい。
- 新年度に向けて子どもたち、保護者が不安定な思いをしないように少しずつ準備を進めていきたい。
- 幼児との連携をしっかり取り幼児の子どもたちの事も把握していきたい。
- 自分を表現する力が十分ではない子や言葉で伝えられない子の気持ちをくみ取り声掛けや代弁で確認していたが、理解出来ない事もあったので、今後もしっかり関わっていく。

- 発達段階や家庭環境等を考慮したり、理解を深めたりし、先を見通した援助を行う事や環境を整える事を意識し、今後も保育の質の向上に努めて行く。
- 欲求について泣いて伝えようとした場合、気持ちをしっかり受け止め心地良く過ごせるように関わることに努める。

4 よくできている
 3 まあまあできている
 2 あまりできていない
 1 まったくできていない

総合評価
4

Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・義務

内 容		評価
1	保育を通して保護者との信頼関係を築くように努める	3
2	保育時間外でも、保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がける	3
3	職務上知り得たプライバシーに関する情報等の秘密を守る	4
4	保育者の人間性が子ども達に影響を与えることを自覚している	4
5	園児や保護者の対応には、公平さを欠かないようにしている	4
6	朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている	4
7	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている	4
8	教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している	3
9	締切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている	3
10	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や上司に報告、連絡、相談している	3
11	当番や役割による仕事を理解し確実にやっている	3
12	幼児の教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている	3
13	上司の指示、命令には責任を持って実行し、他の職員とのコミュニケーションをとりチームワークを大切にしている	4

～主な成果（よくできたこと）～

【幼児】

- 毎日のクラスblogで保護者と子どものコミュニケーションがとれたのでは・・と感じる。
- 玄関での挨拶は目をしっかり見て挨拶するように心がけた。
- 自分の役割、提出物は、しっかり出来ていた。
- 毎日の会議の中で子どもたちの様子をしっかりと伝え必要な事は、上司に相談していた。
- 週日案を立てる事で、自分の中で毎日の課題や反省点がみられ次の日の保育に繋げる事が出来た。
- 提出物、行事の準備など期限を守るように努めた。
- 子どもの前での言葉遣いや行動に気を配り手本となるようにした。
- 保育者としての自覚を意識し子どもと関わる事ができた。
- 当番や担当の仕事は、責任を持って取り組むことが出来た。
- 基本的に保育者としての自覚を持ちながら言葉選びや行動を意識したり、どの子にも保護者にも公平な目線で姿や成長を捉えるようにした事は出来ていた。
- より良い保育をしたい、どうしたらいいか等の思いを強くもちながら保育に向き合う事は出来ていた。
- 会う機会が少ない保護者には出来るだけ電話で話す機会を作ることを心がけた。

【乳児】

- 他の職員とコミュニケーションをとり連携しながら保育が出来ている。
- わからない事、困った事はすぐに相談し解決出来るようにした。
- プロとしての意識をしっかりと持って保育にあたるように心がけている。
- 保護者が安心感を持てるよう、日々コミュニケーションをとるよう努めた。
- 様々な研修に参加させてもらい、保育に活かすことに努めている。
- アレルギー対応は特に慎重に確認し他の職員からアドバイス等受けながら対応するようにしている。
- 避難訓練を毎月行ったり、遊具の点検や壊れている所への対処など気づいた職員で伝え合うことで危機管理はよく出来ていると感じる。
- どの園児、保護者にも同じ様に明るく挨拶することが出来た。
- 子どもの事で必要なことがあればすぐに同じクラスの先生に情報を共有しさらに副園長、園長にも相談することが出来た。

～課題（今後やるべきこと）～

【幼児】

- 提出物の締め切り日を守る。
- 教材教具の管理を徹底する。
- 毎日の保育を振り返り、反省することを怠らない。
- 今後に向け、小学校への就学を視野に入れ、保育を計画する。
- 保育環境の整理整頓を心がける。
- アレルギー・痙攣などの対応方法を職員全員で共有する。（園内研修にとりいれる）
- 保護者との連携を密にする。
- 教育・保育に関する情報に積極的に感心を持つ。
- 保護者に園での様子を伝える時は、簡潔に様子を伝えるようにする。

【乳児】

- 知識や技術を身につけるように努力する。
- ミスがないように慎重に確実に仕事をする。
- アレルギー反応について強い関心を持ち、事故がおきないように努める。
- 保育室の環境整備をしっかり行う。
- 良いチームワークがとれるように、明るい雰囲気大切にしたい。また大切な事は皆で共有し守れるように
折々に話し合い、確認をしていきたい。
- 知識や技術を身に付けられるよう努力をしていく。
- 消耗品補充について定期的に確認をし、早めに保護者へ声をかけるように努める。

Ⅳ 保育者の専門性に関する研修 研究への意欲・態度

4 よくできている
3 まあまあできている
2 あまりできていない
1 まったくできていない

総合評価
3

内 容		総合評価
1	研修会等には自己課題をもって参加し、報告書は必ず提出する	3
2	自分の保育については自己課題を持ち計画や反省を行う	3
3	園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方・名前を知っていて危険のないように活用する 施設設備の安全確保及び子どもたちの保育・教育の安全指導を行っている	3
4	保育室やベランダ等の環境が整理・整頓され安全、清潔が保たれている	3
5	子どもを取り巻くさまざまな情報に関心を持ち保育に役立てる	3
6	アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている	3
7	小学校の教育内容に関心を持ち理解しようとしている	3
8	子どもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもって取り組む	3
9	特別支援教育の理解を深め該当する園児に個別の配慮をしながら発達の支援をする	4

～主な成果（よく出来たこと）～

【幼児】

- ・特別支援に関しての研修に関しては、積極的に受けそこで学んだことをどう活かしたらいいかを考えながら日々子どもたちの援助を行ってきた。
- ・保育の内容を振り返り反省したことは、次の保育に活かせるようにした。
- ・研修で学んだ事を実際保育に取り入れ、実践する事が出来た。
- ・週日案を通して、日々の保育の計画や課題が見え反省をすることが出来た。
- ・研修会に参加し保育や遊びに関して理解を深め、実践することが出来た。
- ・保育室や廊下の棚を綺麗に保てるよう、定期的に整理整頓した。
- ・特別な支援について学んだ知識を活かし関わる事が出来た。
- ・グラウンドの使い方危険な場面が多かったので信号や道路を作ったり、サッカーコートには線を引き得点版を準備した。その結課目的を持って遊ぶことが出来ていた。

【乳児】

- ・避難訓練を毎月行なったり、遊具の点検や壊れているところへの対応等、職員に伝え合うことで危機管理は、よく出来ていると感じる。
- ・関心のあるテーマの研修に積極的に参加し、得た知識を伝えるようにした。
- ・プロとしての意識をしっかりと持ち保育にあたるように心がけている。
- ・職員とコミュニケーションをとり、チームワークを大切にする対応をすることが出来た。
- ・連絡等は伝え忘れがないように気を付けた。
- ・子どもの頑張っている所やよい面、成長したところなど保護者に伝えるよう意識し、安心感や信頼感に繋がられるように努めた。
- ・子どもの発達段階を把握し保育をしている。気になる様子があれば自分なりに調べたり他の先生に聞き情報を集めた。
- ・興味のある研修には参加し、自分の保育の専門性の向上に努めた。
- ・アレルギーへの対応の仕方や特別支援教育の理解を深めることが出来た。
- ・研修等で学んだ事を職員間で共有したり、保育に活かす事が出来た。

～課題（今後やるべきこと）～

【幼児】

- 保育室、園内の環境整理にあまり気を回せなかったので意識して行動にうつせるようにしたい。
- カードゲーム、ボードゲームのルールを理解する。
- 様々な研修に積極的に参加したい。
- 療育の施設など見学に行きたい。
- 小学校の教育内容を理解し、幼小交流に繋げ様々な事を学んでいきたい。
- 教材・教具の管理を徹底する。
- 遊びの中で達成感を味わえる経験は、とても大事な事と考えている。そこをしっかりと意識して遊びを進めていきたい。

【乳児】

- 園庭の安全管理を日々職員間で確認し共有していく。
- リモートでの研修が増え、他の園の声を聞くことが少なくなった気がしている。
- 様々な園の取り組みに感心を持ち、よりよい研修が出来たら良いと思う。
- 自分の保育の反省を日々行い、より良い保育が出来るようにする。
- 子どもたちが安全に快適に生活出来るよう、細かい所にも気を配りすぐに対処するように努める。
- 研修に望む際には、自分の保育を振り返り事前に内容を把握し、自己課題を持って受ける事を心がけている。

V 保護者への対応・守秘義務

- 4 よくできている
 3 まあまあできている
 2 あまりできていない
 1 まったくできていない

総合評価
3

内 容		総合評価
1	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している	3
2	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり電話などを使って伝え合っている	3
3	保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している	3
4	子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている	3
5	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や上司等に報告や相談をしている	4
6	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない	4
7	秘密情報について新たに知りえたことについては、直ちに園長に報告している	4
8	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	3
9	親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない	4
10	電話では、簡潔に要領よく対話する事を心がけている	3
11	保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	3
12	保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない	4
13	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している	4

～主な成果（よくできたこと）～

【幼児】

- ・園児の家庭状況や保護者からの要望などは、毎日の幼児会議などで園長だけではなく他の先生にも情報共有が出来ている。
- ・保護者の心配事には寄り添いながら、子どもの様子や園での援助を園児の成長・発達段階を踏まえて話すようにしていたので、保護者と共に子どもの成長を喜んだりすることが出来た。
- ・面談では、それぞれの保護者の悩みや思いを聞き記録を保育に活かすことが出来た。
- ・一人ひとりの園での様子を定期的に伝えたり、保護者からの話も聞くように努めた。
- ・保護者の要望を上司に伝え、家庭と園での連携を図った。
- ・研修に積極的に参加し興味のある事を学ぶことが出来た。
- ・連絡アプリを通じて保護者との信頼関係も良好だと思う。

【乳児】

- ・何かあったときには担任や主任・園長に報告、連絡、相談し適切に対応するよう努めた。
- ・子ども同士のトラブルや活動中の怪我等、小さな事でも必ず保護者に伝え共有出来るようにした。

～課題（今後やるべきこと）～

【幼児】

- ・保護者の気持ちをしっかり受け止め寄り添った話しかけが出来るように努める。
- ・正しい日本語を意識し、話を要約する力を身につける。
- ・幼小連携の為に小学校についての知識を取り入れたい。

【乳児】

- ・保護者の気持ちに寄り添った言葉が出来るように努めていく。
- ・特定の子同士のトラブルが続かないよう未然に防いだり、保護者に伝える時は丁寧に説明や対応をし、不安感や不信感が残らないように対応していく。
- ・進級時に変わることは事前に丁寧に説明し理解してもらえよう努める。

Ⅵ地域の自然や社会とのかかわり

- 4 よくできている
- 3 まあまあできている
- 2 あまりできていない
- 1 まったくできていない

総合評価
3

内 容		総合評価
1	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	3
2	地域の自然や公共施設を指導計画の中で位置づけて活用している	3
3	実習生や中高生の保育体験、ボランティアを受け入れる意味を理解し接している	3
4	小学生が遊びにくることの出来る場（行事等を含む）を設けている	2

～課題（よくできたこと）～

- 中学生・高校生のボランティア受け入れに関しては無理のない課題を設け、学生に合わせたアドバイスを心がけた。
- 子どもたちは、直接の地域の方や中高生との関わりはなかったが、幼児部に来ている実習生や中学生の様子と一緒にみたり子育てひろばに来ている保護者に挨拶をすることが出来た。
- 実習生にとって少しでも学びの糧になってもらえるよう、落ち着いた関わり方をみてもらえるようにした。
- 親しみやすい雰囲気作りや笑顔で接することを心がけている。
- 実習生には明るく接し、コミュニケーションをとり、充実した学びを得られるように意識した。
- 出勤中に会う地域住民には挨拶を心がけている。

～課題（今後やるべきこと）～

- 小学校の発表会の様子を見る機会があったが、今後は幼小交流の場を増やしていきたい。
- 園外保育に行く際にはしっかりと下見をし細かな部分まで安全面を確認する。
- 未就園児・子育て開放にきている子どもたちとの交流を図りたい。
- 実習生に人見知りや激しく実践が難しかった体験があったので違った体験が出来るようにしたい。
- 乳児としてはあまり機会がなかったが実習生には希望が持てるような話しをするように努めた。
- 実習生に乳児保育についてどう伝えるか考えていきたい。
- 地域の自然や社会との関わり、自園の子育て事業について理解を深められるよう努めていく。
- これからも地域の方々とふれ合える機会が沢山あると良いと思う。

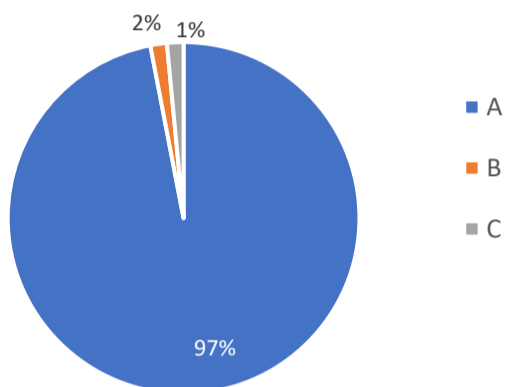
令和5年度ときわみなみのこどもえん保護者アンケート

アンケート回答率 73%

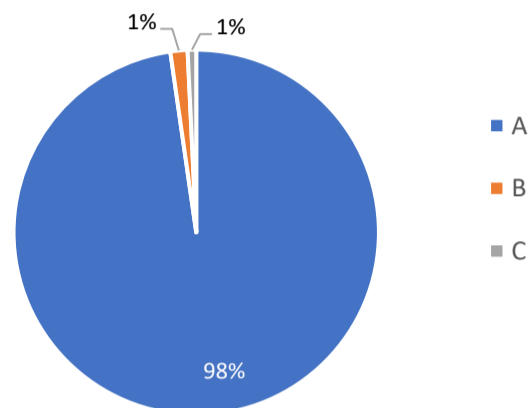
【評価基準】

A 思う B 思わない C どちらとも言えない

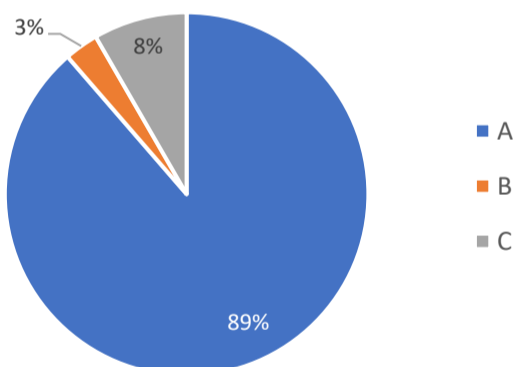
1. お子様はこども園での生活を楽しんでいますか



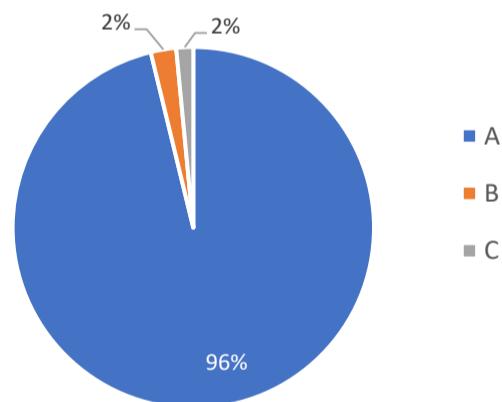
2. こどもえんの生活を通してお子様の心身の成長を感じますか



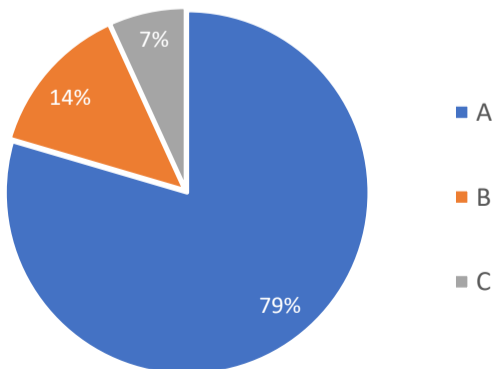
3. お子様は、遊びの楽しさや達成感を味わい自信をもって行動できるようになったと思いますか



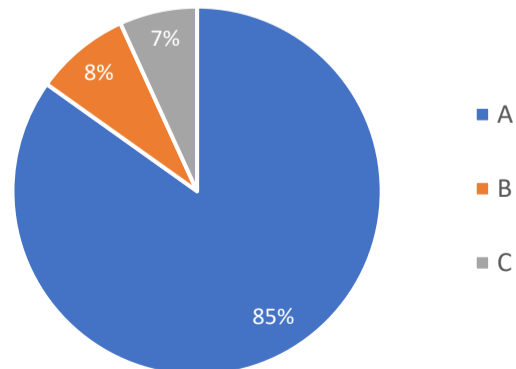
4. 登園の自然に恵まれた環境の中でお子様は、十分に自然と関わっていると思いますか



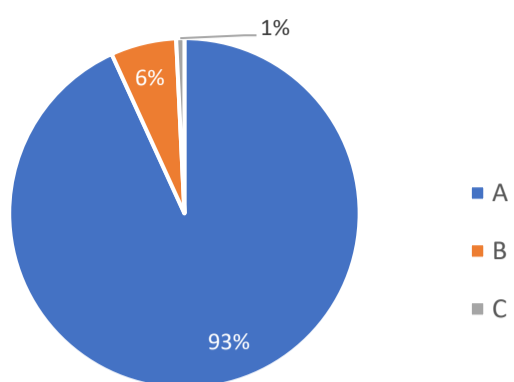
5. 当園は教育目標や保育の方針について分かりやすく伝えられていると思いますか



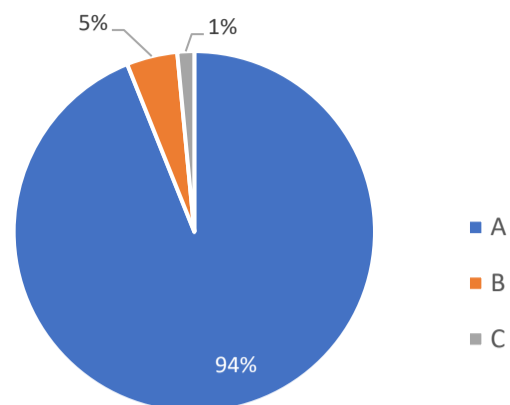
6. 当園は子どもたちにとって必要な保育や活動がしやすい安全な環境が整っていると思いますか



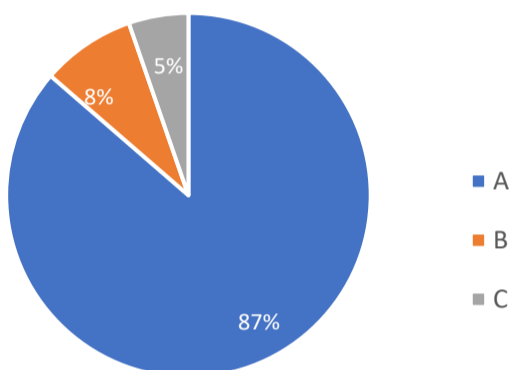
7.保育教諭は子どもを良く理解し、一人ひとりの性格や特性などに配慮しながら関わっていると思いますか



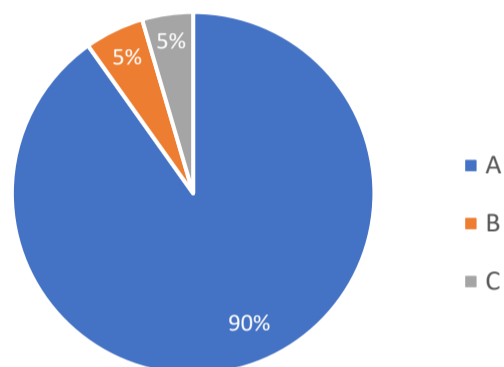
8当園は畑の活動、食育を通して食に関する関心を育てていると思いますか



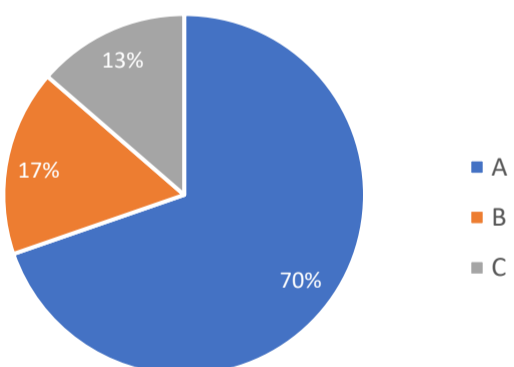
9保育教諭はお子様の様子についての連絡や相談に適切に対応していると思いますか



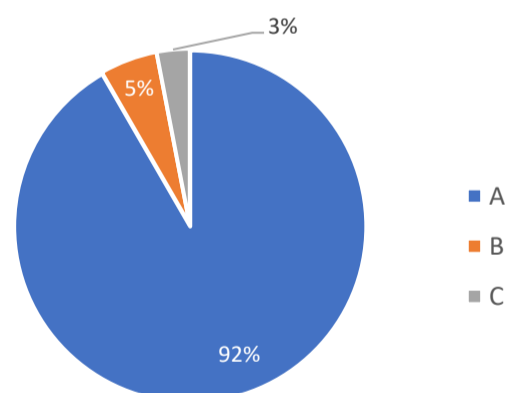
10保育中の発熱やケガ等が起きた場合、保護者への連絡や体調変化への対応は十分にできていると思いますか



11当園は、安全管理、感染症対策は適切に行われていると思いますか



12当園のアプリから発信しているクラスblog、連絡帳やホームページを通して園の様子やお子様の様子が伝わっていますか



13今現在、ときわみなみのこどもえんのお子様を入園させて良かったと思いますか

